

LAN アクキュライザーの活用(8)

—CD と配信音源再生(2)—

1. 始めに

前報(7)に引き続き CD と配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのはバッハの無伴奏チェロ組曲です。

CD

ドイツグラモフォン POCG-10243-4

ミッシェル・マイスキー(チェロ)

STAGE+

ミッシェル・マイスキー(チェロ)

3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(21\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

CD の再生は EMT981 により行います。

CD の再生では、マイスキーの演奏は、抑揚、緩急、強弱自在のマイスキー節のバッハで、シュタルケルやフルニエ、ジャンドロンのようなオーソドックスな演奏とは一味違います。音質は極めてアナログ的でエッジのたったようなところはなく、ディテールの再現もありながら、滑らかさもあり、朗々とした鳴り方です。これらは、EMT981 本来の特性に加えて、スピーカーアクキュライザーの位置変更やケーブルチューナーの追加の効果が出ているものと言えます。

STAGE+再生では、この場合でも音質は CD と同様にデジタル臭がなく、ディテールの再現もありながら、滑らかさもあり、朗々とした鳴り方で、ちょっと聴きでは判別しにくいくらいです。敢えて違いを指摘すれば、CD は響きが豊かであり、STAGE+の配信は、音が締まっている印象です。

4. まとめ

CD と STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクキュライザーの装着の効果で CD に近づいた印象です。

以上